

## 東海地域で働く看護職者の研修ニーズ調査結果の報告

看護職教育・研究支援委員会

### Report of the Study and Training Needs Research Results of Nurses Working in Tokai Area

Kangoshoku Kyouikukenkyuu Shieninkai

看護職者の学習ニーズをふまえて教育・研究を支援する委員会活動を展開するために、看護職者の研修ニーズを調査した。東海地域の看護職に調査用紙を1495部配布し、803名の回答を得た（有効796名）。4分野に分けて質問した結果、「1. 看護診断や看護過程等」では、看護管理、看護教育、看護記録の順で希望が多く、看護管理は他の分野を含めても最も希望が多かった。「2. 看護研究」では、統計処理の操作、質的研究の基礎、などが多かった。「3. 看護技術」では、コミュニケーション技術、フィジカルアセスメント、摂食・嚥下アセスメントの順であった。「4. トピックス」では、災害医療、うつ対策・自殺予防が高かった。経験年数、職位、勤務領域別に傾向をみたところ、5年未満では看護診断、看護過程の希望が多く、6年以上では看護教育、看護管理の希望が多いなど、それぞれにおいて若干の傾向の違いがみられた。一方、コミュニケーション技術、災害看護は経験年数や職位、勤務領域に関係なく希望が高かった。

キーワード：ニーズ、看護職、地域貢献、調査報告、セミナー

#### はじめに

愛知県立看護大学の法人化に伴い、看護実践センターの業務として、看護職者の継続学習および研究活動を支援する活動が位置づけられた。これまで、本学卒業生の継続学習を支援する活動は、平成11年に設立された愛知県立看護大学看護研究会の活動によって支えられてきた。看護研究会が開催してきた講演会、セミナー、個別研究指導などの様々な企画や事業は、卒業生のみならず愛知県周辺で活躍する看護職の継続学習をも支援し、これらの活動を通して看護の質の向上に大きく貢献してきた。看護実践センターのもとにある看護職教育・研究支援委員会は、平成20年度より看護研究会が果たしてきた役割を引き継ぎ、委員会活動として、看護職者の教育および研究を支援する活動を展開することとなった。そこで、今後の本委員会の活動を看護職者の学習ニーズをふまえた意義あるものとしていくために、地域の看護職者を対

象に研修ニーズ調査を行ったので、その結果を資料として報告する。

#### I. 調査目的

東海地域（愛知県周辺）で働く看護職者の研修ニーズを明らかにする。また、経験年数、職位の違いなどによるニーズの差異を明らかにし、今後の研修企画立案の参考となる資料をえる。

#### II. 調査方法

##### 1. 調査用紙の配布対象と手続き

東海地域（愛知県周辺）における医療施設121施設および保健施設51施設、看護学校44施設の看護（保健）部門責任者に対して、文書で調査の趣旨と方法を説明し、各施設の経験年数や職位、所属部署などの異なる看護職に調査用紙を配布していただくように依頼した。調査用紙

は、医療施設には各10部、看護学校・保健施設には各3部を同封し、計1495部の調査用紙を発送した。

## 2. 調査期間

平成20年6月中旬から7月下旬

## 3. 調査内容

1) 対象の属性：経験年数、職種・職位、現在の勤務領域

2) 関心のあるセミナーのテーマや分野：看護診断や看護過程等、看護研究、看護技術（演習など）、看護に関するトピックスの4つの分野を設定し、企画の可能性のあるテーマを具体的に列挙して、関心の有無について多肢選択式で記入を求めた。

## 4. 倫理的配慮

対象に対しては、調査目的と方法、調査協力は自由意志に基づくこと、調査に協力しないことによる不利益はないこと、調査は無記名で個人が特定されることはないこと、データは調査目的以外に使用しないことを文書により説明した。また、調査に協力していただける場合のみ回答して投函することを依頼した。なお、本調査は研究目的で行うものではないため、研究倫理審査委員会の審査は受けていない。

## 5. 集計方法

質問紙への回答を記号処理したのち、セミナーの内容を「看護診断や看護過程」「看護研究」「看護技術」「看護に関するトピックス」の4つに分類しExcelに入力、経験年数別と職位別、勤務領域別に単純集計し傾向を分析した。

## Ⅲ. 結 果

配布数1495部に対して、回答は803名（回収率53.7%）から得られた。3項目以上無記入回答があるものは除外し、最終的に796名のデータを分析対象とした。

### 1. 回答者の背景（表1）

回答者の背景については表1に示した。平均経験年数は19.6年で、内訳をみると3年未満38名（4.8%）、3～5年42名（5.3%）、6～10年78名（9.8%）、11～15年104名（13.1%）、16～20年143名（18.0%）、21～25年166名（20.9%）、26～30年128名（16.1%）、30年以上94名（11.8%）無回答3名（0.0%）であった。

現在の職位は、部長級51名（6.4%）、師長級335名（42.1%）、主任級142名（17.8%）、スタッフ218名（27.4%）、教員33名（4.1%）、その他17名（2.1%）であった。

所属別にみると内科領域190名（23.9%）、外科領域129名（16.2%）、混合病棟77名（9.7%）、精神科領域68名（8.5%）、ICU・救命・手術室55名（6.9%）、看護教育53名（6.7%）、地域保健46名（5.8%）、小児領域36名（4.5%）、看護管理部門29名（3.6%）、その他113名（14.2%）、全体796名（100%）であった。

表1 所属別にみた回答者の背景

実数 (%)  
n=796

項目	カテゴリー	内科領域 (n=190)	外科領域 (n=129)	混合病棟 (n=77)	精神領域 (n=68)	ICU・救命・ 手術室 (n=55)	看護教育 (n=53)	地域保健 (n=46)	小児領域 (n=36)	看護管理 部門 (n=29)	その他 (n=113)	全体 (n=796)
経験 年数	3年未満(n=38)	10(1.3)	9(1.1)	6(0.8)	0(0)	4(0.5)	0(0)	3(0.4)	4(0.5)	0(0)	2(0.3)	38(4.8)
	3～5年(n=42)	10(1.3)	10(1.3)	8(1.0)	8(1.0)	1(0.1)	2(0.3)	0(0)	1(0.1)	0(0)	2(0.3)	42(5.3)
	6～10年(n=78)	22(2.8)	9(1.1)	4(0.5)	9(1.1)	8(1.0)	2(0.3)	7(0.9)	2(0.3)	0(0)	15(1.9)	78(9.8)
	11～15年(n=104)	31(3.9)	18(2.3)	9(1.1)	10(1.3)	6(0.8)	6(0.8)	5(0.6)	4(0.5)	0(0)	15(1.9)	104(13.1)
	16～20年(n=143)	37(4.7)	31(3.9)	11(1.4)	11(1.4)	7(0.9)	6(0.8)	7(0.9)	8(1.0)	1(0.1)	24(3.0)	143(18.0)
	21～25年(n=166)	39(4.9)	23(2.9)	21(2.6)	11(1.4)	13(1.6)	12(1.5)	8(1.0)	9(1.1)	8(1.0)	22(2.8)	166(20.9)
	26～30年(n=128)	27(3.4)	22(2.8)	10(1.3)	12(1.5)	10(1.3)	12(1.5)	8(1.0)	3(0.4)	8(1.0)	16(2.0)	128(16.1)
	30年以上(n=94)	12(1.5)	8(1.0)	6(0.8)	6(0.8)	7(0.9)	12(1.5)	8(1.0)	5(0.6)	12(1.2)	18(2.3)	94(11.8)
	無回答(n=3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0.0)
	平均(年数)±SD	18.1±8.9	18.2±9.2	18.1±9.5	18.8±9.4	20.0±9.8	23.6±8.3	20.2±10.1	18.9±9.9	29.7±5.3	21.0±9.6	19.6±9.5
職 位	部長級(n=51)	14(1.8)	6(0.8)	10(1.3)	2(0.3)	4(0.5)	4(0.5)	3(0.4)	0(0)	2(0.3)	6(0.8)	51(6.4)
	師長級(n=335)	81(10.2)	54(6.8)	27(3.4)	22(2.8)	24(3.0)	15(1.9)	24(3.0)	23(2.9)	7(0.9)	58(7.3)	335(42.1)
	主任級(n=142)	28(3.5)	31(3.9)	9(1.1)	14(1.8)	11(1.4)	13(1.6)	3(0.4)	5(0.6)	8(1.0)	20(2.5)	142(17.8)
	スタッフ(n=218)	50(6.3)	31(3.9)	27(3.4)	27(3.4)	12(1.5)	19(2.4)	14(1.8)	5(0.6)	11(1.4)	22(2.8)	218(27.4)
	教員(n=33)	12(1.5)	4(0.5)	4(0.5)	1(0.1)	3(0.4)	2(0.3)	1(0.1)	2(0.3)	1(0.1)	3(0.4)	33(4.1)
	その他(n=17)	5(0.6)	3(0.4)	0(0)	2(0.3)	1(0.1)	0(0)	1(0.1)	1(0.1)	0(0)	4(0.5)	17(2.1)
	合計	190(23.9)	129(16.2)	77(9.7)	68(8.5)	55(6.9)	53(6.7)	46(5.8)	36(4.5)	29(3.6)	113(14.2)	796(100)

(8.5%), ICU・救命・手術室55名(6.9%), 看護教育53名(6.7%), 地域保健46名(5.8%), 小児領域36名(4.5%), 看護管理部門29名(3.6%) その他113名(14.2%)であった。

## 2. 全体の研修ニーズ

セミナーの主な内容を「看護診断や看護過程等」, 「看護研究」, 「看護技術」, 「看護に関するトピックス」の4つに分類し, 具体的なセミナー内容ごとの希望者数を表2～表5に示した。

### 1) 「看護診断や看護過程等」のセミナー希望者数(表2)

「看護診断や看護過程等」のセミナーとして7項目を提示して複数回答で選択を求めた結果を表2に示した。看護管理が383名(48.2%)と最も多く, 次いで, 看護教育が305名(38.5%)と同程度に多く, 看護記録, 看護倫理, 看護診断の順で多かった。看護管理は他の分類のセミナーを含めてみても, 全セミナー中で最も希望者数が多かった。その他としては, 医療経営・診療報酬, 医療安全関連などの希望があった。

### 2) 「看護研究」のセミナー希望者数(表3)

「看護研究」のセミナーとして15項目を提示して複数回答で選択を求めた結果を表3に示した。統計処理(SPSS)の操作が259名(32.7%)と最も多く, 次いで, 質的研究の基礎, 研究論文の作成, 質問紙調査の方法の順に多かった。

### 3) 「看護技術」のセミナー希望者数(表4)

「看護技術」のセミナーとして4項目を提示して複数回答で選択を求めた結果を表4に示した。コミュニケーション技術が346名(43.6%)と最も多く, フィジカルアセスメントも315名(39.7%)と多く, 次いで, 摂食嚥下アセスメント, スキンケアの順に多かった。その他としては, 褥創予防やカウンセリング技術, 救急看護などの記載がみられた。

### 4) 「看護に関するトピックス」のセミナー希望者数(表5)

「看護に関するトピックス」のセミナーとして4項目を提示して複数回答で選択を求めた結果を表5に示した。災害医療が377名(47.5%)と最も多く, うつ対策・自殺予防も333名(42.0%)と多かった。次いで, メタボリッ

表2 看護診断や看護過程等  
n=796

セミナー	希望者数 (%)
看護管理	382(48.2)
看護教育	305(38.5)
看護記録	258(32.5)
看護倫理	225(28.4)
看護診断	224(28.3)
看護過程	118(14.9)
看護理論	109(13.8)
その他	36( 4.5)

表3 看護研究  
n=796

セミナー	希望者数 (%)
統計処理 (SPSS) の操作	259(32.7)
質的研究の基礎	225(28.4)
研究論文の作成	188(23.7)
質問紙調査の方法	176(22.2)
学会発表	172(21.7)
量的研究の基礎	164(20.7)
看護研究の文献検索	141(17.8)
質的研究実践編	139(17.5)
ExcelやWordの操作等	128(16.1)
看護研究概論	118(14.9)
パワーポイントの操作	117(14.8)
個別研究指導	115(14.5)
図表の作成	103(13.0)
看護研究の文献クリティーク	96(12.1)
研究倫理	78( 9.8)
その他	5( 0.6)

表4 看護技術  
n=796

セミナー	希望者数 (%)
コミュニケーション技術	346(43.6)
フィジカルアセスメント	315(39.7)
摂食・嚥下アセスメント	199(25.1)
スキンケア	199(25.1)
その他	21( 2.7)

表5 看護に関するトピックス  
n=796

セミナー	希望者数 (%)
災害医療	377(47.5)
うつ対策・自殺予防	333(42.0)
メタボリックシンドローム	147(18.5)
乳幼児・児童虐待予防	125(15.7)
その他	42( 5.3)

クシンドローム、乳幼児・児童虐待予防の順に多かった。その他としては、医療事故や感染対策、災害時に備えた地域支援対策などの記載がみられた。

### 3. 各セミナーの経験年数別ニーズ

「看護診断や看護過程等」, 「看護研究」, 「看護技術」, 「看護に関するトピックス」ごとに、経験年数別に各セミナーの希望者数をクロス集計した結果を表6～表9に示した。表中の％は、セミナーごとに経験年数別に希望した人数を経験年数群全体の人数で割り、百分率化した数値である。

#### 1) 「看護診断や看護過程等」のセミナーの経験年数別ニーズ (表6)

最もニーズが高かったセミナーは、経験年数3年未満

では、看護診断(41.0％)で、3～5年では看護過程(42.9％), 6～10年, 11～15年では看護教育(それぞれ、40.5％, 40.4％), 16～20年, 21～25年, 26～30年, 31年以上では、看護管理(それぞれ、47.2％, 67.1％, 62.0％, 58.5％)であった。

#### 2) 「看護研究」のセミナーの経験年数別ニーズ (表7)

最もニーズが高かったセミナーは、経験年数3年未満では、看護研究概論、看護研究の文献検索(それぞれ、23.1％, 23.1％)で、3～5年ではExcelやWordの操作等(33.3％), 6～10年では、パワーポイントの操作等(30.4％)で、11～15年16～20年, 21～25年, では質的研究の基礎(それぞれ、28.8％, 27.1％, 28.7％), 26～30年, 31年以上では、統計処理/統計ソフト(SPSS)の操作等(それぞれ、37.2％, 42.6％)であった。

表6 経験年数別にみた看護診断や看護過程等のニーズ

実数 (%)  
n=796

経験年数 セミナー	3年未満 n=38	3～5年 n=42	6～10年 n=78	11～15年 n=104	16～20年 n=143	21～25年 n=166	26～30年 n=128	31年以上 n=94
看護診断	<u>16(41.0)</u>	16(38.1)	27(34.2)	39(37.5)	39(27.1)	51(30.5)	35(27.1)	20(21.3)
看護過程	15(38.5)	<u>18(42.9)</u>	16(20.3)	19(18.3)	20(13.9)	17(10.2)	8( 6.2)	5( 5.3)
看護記録	15(38.5)	16(38.1)	26(32.9)	39(37.5)	43(29.9)	47(28.1)	47(36.4)	25(26.6)
看護理論	3( 7.7)	4( 9.5)	8(10.1)	12(11.5)	19(13.2)	24(14.4)	24(18.6)	13(13.8)
看護倫理	5(12.8)	2( 4.8)	12(15.2)	19(18.3)	37(25.7)	57(34.1)	51(39.5)	39(41.5)
看護教育	2( 5.1)	7(16.7)	<u>32(40.5)</u>	<u>42(40.4)</u>	60(41.7)	72(43.1)	52(40.3)	36(38.3)
看護管理	6(15.4)	3( 7.1)	22(27.8)	31(29.8)	<u>68(47.2)</u>	<u>112(67.1)</u>	<u>80(62.0)</u>	<u>55(58.5)</u>
その他	0( 0)	0( 0)	4( 5.1)	5( 4.8)	4( 2.8)	8( 4.8)	4( 3.1)	9( 9.6)

注：下線は各経験年数群において最も希望者が多かったセミナー

表7 経験年数別にみた看護研究のニーズ

実数 (%)  
n=796

セミナー	経験年数 3年未満 n=38	3～5年 n=42	6～10年 n=78	11～15年 n=104	16～20年 n=143	21～25年 n=166	26～30年 n=128	31年以上 n=94
看護研究概論	<u>9(23.1)</u>	8(19.0)	12(15.2)	24(23.1)	19(13.2)	18(10.8)	12( 9.3)	15(16.0)
質的研究の基礎	8(20.5)	10(23.8)	19(24.1)	<u>30(28.8)</u>	<u>39(27.1)</u>	<u>48(28.7)</u>	36(27.9)	34(36.2)
量的研究の基礎	5(12.8)	5(11.9)	17(21.5)	26(25.0)	31(21.5)	31(18.6)	28(21.7)	20(21.3)
質問紙調査の方法	5(12.8)	6(14.3)	16(20.3)	24(23.1)	27(18.8)	33(19.8)	38(29.5)	25(26.6)
看護研究の文献検索	<u>9(23.1)</u>	9(21.4)	13(16.5)	22(21.2)	31(21.5)	29(17.4)	18(14.0)	10(10.6)
看護研究の文献クリティーク	1( 2.6)	3( 7.1)	9(11.4)	17(16.3)	19(13.2)	24(14.4)	13(10.1)	9( 9.6)
研究倫理	1( 2.6)	3( 7.1)	5( 6.3)	7( 6.7)	16(11.1)	18(10.8)	15(11.6)	12(12.8)
ExcelやWordの操作等	6(15.4)	<u>14(33.3)</u>	17(21.5)	17(16.3)	20(13.9)	29(17.4)	16(12.4)	8( 8.5)
図表の作成	7(17.9)	10(23.8)	13(16.5)	14(13.5)	14( 9.7)	22(13.2)	16(12.4)	6( 6.4)
統計処理(SPSS)の操作等	8(20.5)	8(19.0)	19(24.1)	28(26.9)	47(32.6)	60(35.9)	<u>48(37.2)</u>	<u>40(42.6)</u>
研究論文の作成	8(20.5)	13(31.0)	21(26.6)	25(24.0)	33(22.9)	38(22.8)	32(24.8)	15(16.0)
プレゼンテーションの方法	6(15.4)	11(26.2)	22(27.8)	29(27.9)	32(22.2)	30(18.0)	24(18.6)	18(19.1)
パワーポイントの操作等	6(15.4)	10(23.8)	<u>24(30.4)</u>	21(20.2)	16(11.1)	17(10.2)	14(10.9)	9( 9.6)
質的研究実践編	1( 2.6)	2( 4.8)	10(12.7)	19(18.3)	31(21.5)	34(20.4)	26(20.2)	15(16.0)
研究個別指導	2( 5.1)	2( 4.8)	8(10.1)	10( 9.6)	21(14.6)	26(15.6)	26(20.2)	19(20.2)
その他	0( 0)	0( 0)	1( 1.3)	0( 0)	3( 2.1)	1( 0.6)	0( 0)	0( 0)

注：下線は各経験年数群において最も希望者が多かったセミナー

## 3)「看護技術」のセミナーの経験年数別ニーズ(表8)

最もニーズが高かったセミナーは、経験年数3年未満と3～5年では、スキンケア(それぞれ、51.3%、47.6%)で、6～10年、11～15年、21～25年、26～30年、31年以上では、コミュニケーション技術(それぞれ、45.6%、46.2%、44.9%、38.8%、47.9%)で、16～20年では、フィジカルアセスメント(43.1%)であった。

## 4)「看護に関するトピックス」のセミナーの経験年数別ニーズ(表9)

最もニーズが高かったセミナーは、経験年数3年未満と6～10年、11～15年、16～20年、21～25年では災害医療(それぞれ、59.0%、49.4%、43.3%、45.1%、49.7%)

で、3～5年、26～30年、31年以上では、うつ対策・自殺予防(それぞれ、45.2%、49.6%、53.2%)であった。

## 4. 各セミナーの職位別ニーズ

「看護診断や看護過程等」、「看護研究」、「看護技術」、「看護に関するトピックス」ごとに、職位別に各セミナーの希望者数をクロス集計した結果を表10～表13に示した。表中の％は、セミナーごとに職位別に希望した人数を職位群全体の人数で割り、百分率化した数値である。

## 1)「看護診断や看護過程等」のセミナーの職位別ニーズ(表10)

最もニーズが高かったセミナーは、全ての職位で、看

表8 経験年数別にみた看護研究のニーズ

実数(%)  
n=796

セミナー	経験年数 3年未満 n=38	3～5年 n=42	6～10年 n=78	11～15年 n=104	16～20年 n=143	21～25年 n=166	26～30年 n=128	31年以上 n=94
フィジカルアセスメント	19(48.7)	18(42.9)	30(38.0)	42(40.4)	<u>62(43.1)</u>	64(38.3)	43(33.3)	33(35.1)
摂食・嚥下アセスメント	13(33.3)	19(45.2)	28(35.4)	24(23.1)	39(27.1)	29(17.4)	22(17.1)	22(23.4)
スキンケア	<u>20(51.3)</u>	<u>20(47.6)</u>	29(36.7)	32(30.8)	36(25.0)	36(21.6)	10(7.8)	15(16.0)
コミュニケーション技術	16(41.0)	15(35.7)	<u>36(45.6)</u>	<u>48(46.2)</u>	58(40.3)	<u>75(44.9)</u>	<u>50(38.8)</u>	<u>45(47.9)</u>
その他	2(5.1)	0(.0)	4(5.1)	1(1.0)	2(1.4)	6(3.6)	4(3.1)	1(1.1)

注：下線は各経験年数群において最も希望者が多かったセミナー

表9 経験年数別にみた看護に関するトピックスのニーズ

実数(%)  
n=796

セミナー	経験年数 3年未満 n=38	3～5年 n=42	6～10年 n=78	11～15年 n=104	16～20年 n=143	21～25年 n=166	26～30年 n=128	31年以上 n=94
メタボリックシンドローム	11(28.2)	9(21.4)	17(21.5)	17(16.3)	29(20.1)	29(17.4)	18(14.0)	17(18.1)
災害医療	<u>23(59.0)</u>	18(42.9)	<u>39(49.4)</u>	<u>45(43.3)</u>	<u>65(45.1)</u>	<u>83(49.7)</u>	56(43.4)	44(46.8)
乳幼児・児童虐待予防	11(28.2)	9(21.4)	9(11.4)	27(26.0)	15(10.4)	26(15.6)	14(10.9)	13(13.8)
うつ対策・自殺予防	6(15.4)	<u>19(45.2)</u>	27(34.2)	38(36.5)	54(37.5)	72(43.1)	<u>64(49.6)</u>	<u>50(53.2)</u>
その他	0(.0)	1(2.4)	1(1.3)	7(6.7)	7(4.9)	12(7.2)	9(7.0)	5(5.3)

注：下線は各経験年数群において最も希望者が多かったセミナー

表10 職位別にみた看護診断や看護過程等のニーズ

実数(%)  
n=796

職位	看護部長 副看護部長 課長級以上	看護師長 課長補佐	副看護師長 係長	看護師 保健師	看護教員	助産師 その他
セミナー	n=51	n=335	n=142	n=218	n=33	n=17
看護診断	14(27.5)	112(33.3)	47(32.6)	58(26.4)	8(24.2)	4(23.5)
看護過程	10(19.6)	55(16.4)	27(18.8)	21(9.5)	1(3.0)	3(17.6)
看護記録	17(33.3)	107(31.8)	51(35.4)	67(30.5)	12(36.4)	4(23.5)
看護理論	10(19.6)	41(12.2)	14(9.7)	38(17.3)	4(12.1)	2(11.8)
看護倫理	14(27.5)	83(24.7)	42(29.2)	68(30.9)	13(39.4)	4(23.5)
看護教育	20(39.2)	132(39.3)	44(30.6)	85(38.6)	15(45.5)	8(47.1)
看護管理	<u>22(43.1)</u>	<u>153(45.5)</u>	<u>72(50.0)</u>	<u>107(48.6)</u>	<u>17(51.5)</u>	<u>10(58.8)</u>
その他	3(5.9)	17(5.1)	4(2.8)	11(5.0)	1(3.0)	0(.0)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー



護管理（それぞれ，43.1%，45.5%，50.0%，48.6%，51.5%，58.8%）であった。

## 2)「看護研究」のセミナーの職位別ニーズ（表11）

最もニーズが高かったセミナーは，看護部長・副看護部長・課長級以上，看護師長・課長補佐，副看護師長・係長，看護師・保健師，看護教員で，統計ソフト（SPSS）の操作等（それぞれ，29.4%，30.1%，31.9%，36.8%，39.4%）であった。看護部長・副看護部長・課長級以上では，統計ソフト（SPSS）の操作等の他にも，質問紙調査の方法（29.4%）と研究論文の作成（29.4%）が最も高く，助産師・その他では，研究論文の作成（29.4%）と研究個別指導（29.4%）が最も高かった。

## 3)「看護技術」のセミナーの職位別ニーズ（表12）

最もニーズが高かったセミナーは，看護部長・副看護部長・課長級以上，助産師・その他で，フィジカルアセスメント（それぞれ，45.1%，47.1%）で，看護師長・課長補佐，副看護師長・係長，看護師・保健師，看護教員では，コミュニケーション技術（それぞれ，43.5%，43.8%，40.9%，57.6%）であった。

## 4)「看護に関するトピックス」のセミナーの職位別ニーズ（表13）

最もニーズが高かったセミナーは，看護部長・副看護部長・課長級以上と看護師長・課長補佐，副看護師長・係長，看護師・保健師，看護教員では，災害医療（それぞれ，47.1%，47.6%，48.6%，45.9%，45.5%），助産

表11 職位別にみた看護研究のニーズ

実数 (%)

n=796

職位	看護部長 副看護部長, 課長級以上	看護師長, 課長補佐	副看護師長, 係長	看護師, 保健師	看護教員	助産師, その他
セミナー	n=51	n=335	n=142	n=218	n=33	n=17
看護研究概論	10(19.6)	52(15.5)	27(18.8)	24(10.9)	2( 6.1)	3(17.6)
質的研究の基礎	16(31.4)	91(27.1)	45(31.3)	63(28.6)	8(24.2)	2(11.8)
量的研究の基礎	13(25.5)	75(22.3)	26(18.1)	44(20.0)	5(15.2)	1( 5.9)
質問紙調査の方法	<u>15(29.4)</u>	69(20.5)	32(22.2)	52(23.6)	7(21.2)	1( 5.9)
看護研究の文献検索	10(19.6)	64(19.0)	20(13.9)	40(18.2)	4(12.1)	2(11.8)
看護研究の文献クリティーク	3( 5.9)	42(12.5)	19(13.2)	27(12.3)	4(12.1)	1( 5.9)
研究倫理	5( 9.8)	35(10.4)	14( 9.7)	20( 9.1)	4(12.1)	0( 0.0)
ExcelやWordの操作等	8(15.7)	52(15.5)	16(11.1)	39(17.7)	9(27.3)	4(23.5)
図表の作成	9(17.6)	47(14.0)	14( 9.7)	25(11.4)	5(15.2)	3(17.6)
統計処理（SPSS）の操作等	<u>15(29.4)</u>	<u>101(30.1)</u>	<u>46(31.9)</u>	<u>81(36.8)</u>	<u>13(39.4)</u>	3(17.6)
研究論文の作成	<u>15(29.4)</u>	80(23.8)	37(25.7)	43(19.5)	8(24.2)	<u>5(29.4)</u>
プレゼンテーションの方法	10(19.6)	76(22.6)	25(17.4)	47(21.4)	11(33.3)	3(17.6)
パワーポイントの操作等	9(17.6)	55(16.4)	17(11.8)	32(14.5)	3( 9.1)	1( 5.9)
質的研究実践編	9(17.6)	54(16.1)	20(13.9)	46(20.9)	6(18.2)	4(23.5)
研究個別指導	1( 2.0)	52(15.5)	21(14.6)	29(13.2)	7(21.2)	<u>5(29.4)</u>
その他	0( 0.0)	1( 0.3)	1( 0.7)	2( 0.9)	0( 0.0)	1( 5.9)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

表12 職位別にみた看護技術のニーズ

実数 (%)

n=796

職位	看護部長, 副看護部長, 課長級以上	看護師長, 課長補佐	副看護師長, 係長	看護師 保健師	看護教員	助産師 その他
セミナー	n=51	n=335	n=142	n=218	n=33	n=17
フィジカルアセスメント	<u>23(45.1)</u>	123(36.6)	62(43.1)	85(38.6)	13(39.4)	<u>8(47.1)</u>
摂食・嚥下アセスメント	15(29.4)	82(24.4)	41(28.5)	49(22.3)	7(21.2)	4(23.5)
スキンケア	17(33.3)	89(26.5)	38(26.4)	46(20.9)	6(18.2)	2(11.8)
コミュニケーション技術	20(39.2)	<u>146(43.5)</u>	<u>63(43.8)</u>	<u>90(40.9)</u>	<u>19(57.6)</u>	7(41.2)
その他	1( 2.0)	10( 3.0)	4( 2.8)	3( 1.4)	2( 6.1)	1( 5.9)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

表13 職位別にみた看護に関するトピックスのニーズ

実数 (%)  
n=796

職位	看護部長 副看護部長 課長級以上 n=51	看護師長 課長補佐 n=335	副看護師長 係長 n=142	看護師 保健師 n=218	看護教員 n=33	助産師 その他 n=17
セミナー						
メタボリックシンドローム	8(15.7)	64(19.0)	23(16.0)	44(20.0)	3( 9.1)	5(29.4)
災害医療	<u>24(47.1)</u>	<u>160(47.6)</u>	<u>70(48.6)</u>	<u>101(45.9)</u>	<u>15(45.5)</u>	7(41.2)
乳幼児・児童虐待予防	7(13.7)	62(18.5)	21(14.6)	30(13.6)	2( 6.1)	3(17.6)
うつ対策・自殺予防	20(39.2)	135(40.2)	60(41.7)	97(44.1)	13(39.4)	<u>8(47.1)</u>
その他	7(13.7)	15( 4.5)	5( 3.5)	13( 5.9)	2( 6.1)	0( 0.0)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

表14 勤務領域別に見た看護診断や看護過程等のニーズ

実数 (%)  
n=796

勤務領域	内科 n=190	外科 n=129	混合 n=77	精神 n=68	ICU・ 救命・ 手術室 n=55	看護教育 n=53	地域保健 n=46	小児領域 n=36	看護管理 部門 n=29	その他 n=113
セミナー										
看護診断	69(36.3)	51(39.2)	28(36.4)	20(29.4)	11(19.6)	13(24.5)	3( 6.5)	10(27.8)	6(20.7)	31(27.4)
看護過程	26(13.7)	27(20.8)	13(16.9)	13(19.1)	3( 5.4)	6(11.3)	2( 4.3)	6(16.7)	2( 6.9)	18(15.9)
看護記録	63(33.2)	44(33.8)	27(35.1)	19(27.9)	26(46.4)	9(17.0)	<u>13(28.3)</u>	8(22.2)	6(20.7)	41(36.3)
看護理論	22(11.6)	15(11.5)	13(16.9)	14(20.6)	9(16.1)	13(24.5)	2( 4.3)	9(25.0)	3(10.3)	8( 7.1)
看護倫理	53(27.9)	25(19.2)	19(24.7)	24(35.3)	17(30.4)	27(50.9)	6(13.0)	12(33.3)	9(31.0)	31(27.4)
看護教育	66(34.7)	37(28.5)	29(37.7)	34(50.0)	18(32.1)	<u>44(83.0)</u>	11(23.9)	13(36.1)	10(34.5)	41(36.3)
看護管理	<u>86(45.3)</u>	<u>59(45.4)</u>	<u>42(54.5)</u>	<u>40(58.8)</u>	<u>30(53.6)</u>	22(41.5)	9(19.6)	<u>20(55.6)</u>	<u>24(82.8)</u>	<u>48(42.5)</u>
その他	5( 2.6)	4( 3.1)	2( 2.6)	2( 2.9)	0( 0.0)	3( 5.7)	4( 8.7)	3( 8.3)	2( 6.9)	10( 8.8)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

師・その他で、うつ対策・自殺予防（47.1％）であった。

## 5. 各セミナーの勤務領域別ニーズ

「看護診断や看護過程等」, 「看護研究」, 「看護技術」, 「看護に関するトピックス」ごとに、勤務領域別に各セミナーの希望者数をクロス集計した結果を表14～表17に示した。表中の％は、セミナーごとに勤務領域別に希望した人数を勤務領域群全体の人数で割り、百分率化した数値である。

### 1) 「看護診断や看護過程等」のセミナーの勤務領域別ニーズ（表14）

最もニーズが高かったセミナーは、内科領域、外科領域、混合病棟、精神科領域、ICU・救命・手術室、小児領域、看護管理部門、その他では、看護管理（それぞれ、45.3％、45.4％、54.5％、58.8％、53.6％、55.6％、82.8％、42.5％）で、看護教育領域では看護教育（83.0％）、地域保健では、看護記録（28.3％）であった。

### 2) 「看護研究」のセミナーの勤務領域別ニーズ（表15）

最もニーズが高かったセミナーは、内科領域、外科領域、ICU・救命・手術室、看護教育領域、地域保健、看護管理部門、その他では、統計ソフト（SPSS）の操作（それぞれ、31.1％、30.0％、41.1％、39.6％、26.1％、34.5％、33.6％）であった。混合病棟、精神科領域、小児領域では、質的研究の基礎（それぞれ、32.5％、33.8％、38.9％）で、小児領域では、そのほかにも質問紙調査の方法（38.9％）が高かった。

### 3) 「看護技術」のセミナーの勤務領域別ニーズ（表16）

最もニーズが高かったセミナーは、内科領域、精神科領域、ICU・救命・手術室、地域保健、小児領域、看護管理部門では、コミュニケーション技術（それぞれ、37.9％、51.5％、44.6％、56.5％、55.6％、55.2％）であった。外科領域、混合病棟、看護教育領域、その他では、フィジカルアセスメント（それぞれ、42.3％、48.1％、50.9％、38.1％）であった。

表15 勤務領域別に見た看護研究のニーズ

実数 (%)  
n=796

勤務領域	内科	外科	混合	精神	ICU・ 救命・ 手術室	看護教育	地域保健	小児領域	看護管理 部門	その他
セミナー	n=190	n=129	n=77	n=68	n=55	n=53	n=46	n=36	n=29	n=113
看護研究概論	27(14.2)	22(16.9)	9(11.7)	16(23.5)	9(16.1)	10(18.9)	2( 4.3)	7(19.4)	4(13.8)	12(10.6)
質的研究の基礎	55(28.9)	27(20.8)	<u>25(32.5)</u>	<u>23(33.8)</u>	16(28.6)	20(37.7)	7(15.2)	<u>14(38.9)</u>	<u>9(31.0)</u>	27(23.9)
量的研究の基礎	38(20.0)	21(16.2)	18(23.4)	21(30.9)	11(19.6)	11(20.8)	3( 6.5)	11(30.6)	7(24.1)	21(18.6)
質問紙調査の方法	40(21.1)	23(17.7)	19(24.7)	13(19.1)	13(23.2)	16(30.2)	10(21.7)	<u>14(38.9)</u>	<u>8(27.6)</u>	20(17.7)
研究の文献検索	35(18.4)	22(16.9)	17(22.1)	17(25.0)	10(17.9)	9(17.0)	2( 4.3)	8(22.2)	2( 6.9)	17(15.0)
研究の文献クリティーク	23(12.1)	12( 9.2)	9(11.7)	9(13.2)	5( 8.9)	13(24.5)	1( 2.2)	3( 8.3)	1( 3.4)	18(15.9)
研究倫理	16( 8.4)	11( 8.5)	5( 6.5)	5( 7.4)	7(12.5)	9(17.0)	4( 8.7)	2( 5.6)	6(20.7)	13(11.5)
ExcelやWordの操作	33(17.4)	25(19.2)	12(15.6)	10(14.7)	8(14.3)	5( 9.4)	1( 2.2)	5(13.9)	2( 6.9)	27(23.9)
図表の作成	25(13.2)	13(10.0)	10(13.0)	11(16.2)	9(16.1)	5( 9.4)	4( 8.7)	5(13.9)	3(10.3)	18(15.9)
統計処理 (SPSS) の操作	<u>59(31.1)</u>	<u>39(30.0)</u>	21(27.3)	21(30.9)	<u>23(41.1)</u>	<u>21(39.6)</u>	<u>12(26.1)</u>	12(33.3)	<u>10(34.5)</u>	<u>38(33.6)</u>
研究論文の作成	45(23.7)	29(22.3)	19(24.7)	15(22.1)	17(30.4)	10(18.9)	8(17.4)	13(36.1)	2( 6.9)	28(24.8)
プレゼンテーションの方法	41(21.6)	28(21.5)	22(28.6)	13(19.1)	11(19.6)	10(18.9)	8(17.4)	11(30.6)	2( 6.9)	23(20.4)
パワーポイントの操作	24(12.6)	22(16.9)	10(13.0)	10(14.7)	7(12.5)	7(13.2)	8(17.4)	3( 8.3)	1( 3.4)	25(22.1)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

表16 勤務領域別に見た看護技術のニーズ

実数 (%)  
n=796

勤務領域	内科	外科	混合	精神	ICU・ 救命・ 手術室	看護教育	地域保健	小児領域	看護管理 部門	その他
セミナー	n=190	n=129	n=77	n=68	n=55	n=53	n=46	n=36	n=29	n=113
フィジカルアセスメント	66(34.7)	<u>55(42.3)</u>	<u>37(48.1)</u>	33(48.5)	22(39.3)	<u>27(50.9)</u>	2( 4.3)	14(38.9)	14(48.3)	<u>43(38.1)</u>
摂食・嚥下アセスメント	64(33.7)	33(25.4)	18(23.4)	18(26.5)	8(14.3)	9(17.0)	3( 6.5)	5(13.9)	2( 6.9)	36(31.9)
スキンケア	59(31.1)	47(36.2)	23(29.9)	6( 8.8)	12(21.4)	9(17.0)	4( 8.7)	8(22.2)	2( 6.9)	28(24.8)
コミュニケーション技術	<u>72(37.9)</u>	51(39.2)	32(41.6)	<u>35(51.5)</u>	<u>25(44.6)</u>	26(49.1)	<u>26(56.5)</u>	<u>20(55.6)</u>	<u>16(55.2)</u>	40(35.4)
その他	7( 3.7)	4( 3.1)	0( 0.0)	3( 4.4)	1( 1.8)	0( 0.0)	2( 4.3)	0( 0.0)	1( 3.4)	3( 2.7)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

表17 勤務領域別に見た看護トピックスのニーズ

実数 (%)  
n=796

勤務領域	内科	外科	混合	精神	ICU・ 救命・ 手術室	看護教育	地域保健	小児領域	看護管理 部門	その他
セミナー	n=190	n=129	n=77	n=68	n=55	n=53	n=46	n=36	n=29	n=113
メタボリックシンドローム	41(21.6)	21(16.2)	15(19.5)	4( 5.9)	8(14.3)	8(15.1)	16(34.8)	6(16.7)	4(13.8)	22(19.5)
災害医療	<u>96(50.5)</u>	<u>65(50.0)</u>	32(41.6)	23(33.8)	<u>37(66.1)</u>	<u>30(56.6)</u>	20(43.5)	<u>16(44.4)</u>	12(41.4)	44(38.9)
乳幼児・児童虐待予防	17( 8.9)	11( 8.5)	12(15.6)	10(14.7)	5( 8.9)	6(11.3)	23(50.0)	19(52.8)	4(13.8)	18(15.9)
うつ対策・自殺予防	67(35.3)	46(35.4)	<u>40(51.9)</u>	<u>52(76.5)</u>	18(32.1)	16(30.2)	<u>25(54.3)</u>	10(27.8)	<u>14(48.3)</u>	<u>43(38.1)</u>
その他	15( 7.9)	5( 3.8)	3( 3.9)	2( 2.9)	3( 5.4)	3( 5.7)	2( 4.3)	2( 5.6)	1( 3.4)	6( 5.3)

注：下線は各職位群において最も希望者が多かったセミナー

4)「看護に関するトピックス」のセミナーの勤務領域別  
ニーズ

最もニーズが高かったセミナーは、内科領域、外科領域、ICU・救命・手術室、看護教育領域、小児領域では、災害医療（それぞれ、50.5%、50.0%、66.1%、56.6%、

44.4%）であった。混合病棟、精神科領域、地域保健、看護管理部門、その他では、うつ対策・自殺予防（それぞれ、51.9%、76.5%、54.3%、48.3%、38.1%）であった。



## IV. 考 察

本調査では、東海地区の施設で働く看護職者に対してセミナーに関するニーズを調査し、経験年数別、職位別、勤務領域別にそれぞれの回答の傾向を分析した。セミナーはその内容により「看護診断や看護過程等」「看護研究」「看護技術」「看護に関するトピックス」の4つに分類し、分類ごとに複数のテーマをあげて、多肢選択式で回答を求めたが、「その他」を選択した回答は少なかったことから、本調査における質問紙作成時点でのテーマの選定はある程度妥当なものであったと考えられる。

看護診断や看護過程等のセミナーでは、看護管理に関するセミナーのニーズが多かった。これは、施設内では看護管理に関連した教育を受ける機会が少なく、現在看護管理の職位にあるか否かにかかわらず、多くの看護職者が大学側に対して看護管理に関する学習の機会提供を期待していることが明らかになった。

看護研究のセミナーでは、統計処理（SPSS）の操作に関するニーズが高く、看護研究に関して基本的なExcelの操作方法よりも、より実証的で高度な専門技術を求めていることが明らかとなった。同時に、質的研究の基礎に関するニーズも高いことから、量的研究と質的研究の両方の学習ニーズに対応したセミナー企画が必要であることが示唆された。

看護技術のセミナーでは、従来から看護研究会で開催し好評を得てきたフィジカルアセスメントと摂食嚥下アセスメントのセミナーのニーズが引き続き高く、需要の高さを裏付ける結果となった。最もニーズが高かったコミュニケーション技術のセミナーに関しては、現在までの企画実績がなく、今後の研修企画を立案する際に、新たな視点として検討していきたいテーマである。

看護トピックスのセミナーでは、災害医療やうつ対策・自殺予防のニーズが高かった。トピックスへの関心は、その時ごとに話題となった出来事への関心であり、

職場内で必要に迫られた技術の獲得を目的としたセミナーとは質の異なるものであるといえる。しかしながら、看護学に関しての時代の流れや最新の情報に関して注意を払い、社会のニーズの把握に努めることは、われわれ看護者がサービスの提供者である以上、当然であり、自らの看護や職場環境を客観視する作業も含めて、成長していく看護を目指していきたいというニーズがあるのではないかと推察される。これらのニーズに適切に対応するためには、私たち自身が社会の変化やトピックスに対して敏感でなければならない。

研究対象者の背景をみると、看護管理者が過半数を占め、平均経験年数19.6年と高いことから、この調査の結果から看護職のニーズを偏りなく把握できたとは言いがたい。しかしながら、職位別にみた結果から、看護管理職であっても、一般看護職であっても、ニーズにそれほど大きな違いはなく、病棟を把握している看護管理者は、自分にとってのニーズと病棟にとってのニーズを併せ持っていることから、一般看護職のニーズを反映しているものとも考えることもできる。

## V. ま と め

以上より、東海地区で勤務する看護職者の研修ニーズの傾向の一部を明らかにすることができた。本調査により得られた結果を今後の研修企画に生かしていきたい。

## 謝 辞

お忙しいところ、本調査の実施につきましてご協力いただいた施設の看護部門責任者の皆様、調査にご回答いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

岩瀬信夫 小松万喜子 古田加代子 山口江利子 山田浩雅 尾沼奈緒美 水野美香  
生田美智子 三上勇気